

海洋教育パイオニアスクールプログラム

成果報告書 1：海洋教育のデザイン

1. 学校名：洋野町立種市中学校

2. 活動テーマ名：総合的な学習「海に生き、海とともに歩む」

3. 実践の概要・ねらい

海に生き、海とともに歩んできた種市地域の歴史や文化に目を向け、自分たちの生まれ育った喜びと誇りを感じ、たくましく生きることのできる生徒を育む。また、東日本大震災を経験した町民として、復興や防災について学び、将来に活かしていこうとする態度を養う。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画・教科等との関連

	地域との連携を意識	復興教育の視点から	学びを深め地域へ発信	その他関連する取組
1 学年	海浜清掃（7月） 種市海鳴り太鼓（10月）	復興に思いをよせる日（毎月） 津波防災教育講座（5月） 復興教育講演会（2月）	テーマ別調べ学習（1学期） 保護者を招いて発表会（7月） 文化祭で発表（10月） まとめカルタづくり（3学期）	種市夏祭りへ参加（8月） 野外探検で水源観察（9月） 卒業生と語る会（11月）
2 学年	海浜清掃（7月） 種市海鳴り太鼓（10月）	復興に思いをよせる日（毎月） 復興教育講演会（2月）		種市夏祭りへ参加（8月） 野外探検で水源観察（9月） 卒業生と語る会（11月）
3 学年	海浜清掃（7月） 種市海鳴り太鼓（10月）	復興に思いをよせる日（毎月） 復興教育講演会（2月）		種市夏祭りへ参加（8月） 野外探検で水源観察（9月） 卒業生と語る会（11月）

②実践の評価について

- 生徒自身の自己評価、グループ学習での相互評価等を組み合わせ、自身の成長に気付かせることを目的として行う
- 発表会や文化祭における保護者・来客者アンケート結果をもとに、発信したことに対する外部の評価を取組の成果・課題としてとらえさせる
- 総合的な学習の評価として通知表で保護者へ伝えるとともに、学習指導要録へ記録する

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

○追加：2月19日（月）と20日（火）に、洋野町海洋教育カンファレンスのモデル授業に、1学年生徒（50名）が参加

②実践の成果

- 新入生は小学校で海洋教育に親しんできた生徒たちであり、その学びを発展させながら自ら課題を設定し、調べ・考え・深める学習ができた。
- 1学年の調べ学習発表会に保護者を招いたり、学習のまとめカルタを町内の学校に配布するなど、学びの発信に取り組むことができた。
- 従来行ってきた取組にも、目標を再設定することや新たな視点で臨むことで、思考力・判断力・表現力を育てたり、より真剣な態度で取り組む気持ちを育てたりすることができた。

③次年度への課題

- △総合的な学習のカリキュラムがすでにしっかりと構成されており、新たな取り組みを行うための時間の捻出が難しかった。
- △海浜清掃が他校や他団体の取組と日程が近接してしまい、効果が薄れた。連携・調整が必要である。

6. 主な連携機関及び内容

洋野町役場 商工水産課 … 海浜清掃の日程やゴミの処分について
種市海鳴り太鼓 … 種市の海をテーマにした創作曲の演奏指導

成果報告書2：海洋教育のストーリーマップ

1年生「海と生き、海とともに歩む」

【実践のねらい】

- 地域の歴史や文化に目を向け、生まれ育った地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生きる生徒を育む
- 復興や防災について学び、将来に活かしていこうとする態度を養う

【目標】

- 当たり前存在している海を、多方向から見つめ直し、仲間とディスカッションしながら探求テーマを見つけることができる
- 設定したテーマの解決に向け、計画を立て、調査に出向いたりインタビューを行ったりして、まとめと発表ができる

